

れんこんV字回復プロジェクト

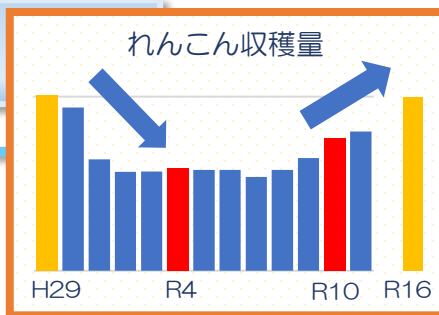
目的

本県のれんこん産地では、「れんこん腐敗病」等の発生により、収量・品質の大幅な低下が進行する中、ブランド産地の強化を図るため、栽培管理の改善により、生産力の回復を図る。

目指すべき姿

- ・れんこんの生産性・収益性が改善
 - ・経営感覚に優れた生産者が多数を占め、経営が安定
 - ・「出荷調整作業」が見直され、経営規模の拡大が加速
- 産地全体として生産量が大幅に増加する**

〔成果目標〕 収穫量 4,950 t (R4) → 5,800 t (R10) → 7,000 t (R16)
反 収 17%アップ (R10) → 40%アップ (R16)



現状・課題

連携

(現状)

- 将来を見越した県域の生産振興の継続的な議論が必要
(県域の生産振興に係る実行組織がない)

→ (課題) **県域課題に対する統一した取組の実践**

生産面

(現状)

- 反収が1トン未満に低下(主な要因: 腐敗病、施肥不足、すじ堀り)
 - ①太陽熱消毒を実施する生産者数・・・24%にとどまる(R5)
 - ②適正な施肥ができていないほ場数・・・16%にとどまる(R5)
 - ③すじ堀り(反収8割程度)の増加

→ (課題) **反収の増加**(生産者の意識変化、新たな技術導入、仕組みづくりなど)

経営面 販売面

(現状)

- 一部生産者では経営が悪化
- 出荷調整作業が、個人の規模拡大の制限要因である
- 個選個販であり、産地として利益最大化が図られていない

→ (課題) **生産者の個々の経営改善**
共選体制の導入による規模拡大・利益最大化

人材面

- 労働力に余裕がある生産者と不足している生産者の存在
- 経験の少ない生産者を対象とした技術習得の場が少ない

→ (課題) **生産者間の労働補完**
若手生産者の技術習得の場の確保

課題解決に向けて

連携

- 「徳島県れんこん産地連絡会議」の開催
→ 役割分担、JA間の意見すり合わせ、県域実行組織の設立検討

生産面

- 反収増加対策の周知(JA、鳴門藍住、徳島)
→ 実証展示、研修会、パンフレット作成、個別巡回、SNS
- 太陽熱消毒作業の省力化技術(機械処理)の実証(鳴門藍住、JA)
- 腐敗病に強い品種選定(農産園芸、鳴門藍住、徳島)
- 効果的な施肥技術の確立(資源環境)
- 労働力不足に対応するスマート技術推進(鳴門藍住、農産園芸)
- 硫化水素など他の反収減少要因に対する個別指導(JA、鳴門藍住)

仕組み づくり

- 太陽熱消毒処理面積の増加に向けた支援(みどり、鳴門藍住、徳島)
→ 支援事業等の具体化検討(例: 太陽熱消毒作業補助金)
新たな受託組織の設立等の検討

経営面 販売面

- 経営の将来シミュレーションによる指導(鳴門藍住)
- 共選シミュレーション(鳴門藍住)
- 共選体制に対する意向調査(JA、鳴門藍住)
- 共選体制移行への工程表作成(JA、鳴門藍住)

人材面

- 労働補完のマッチング(JA)
- 経験の少ない生産者を対象とした研修会開催(鳴門藍住)

【徳島県れんこん産地連絡会議】

JA全農とくしま

農林水産総合技術
支援センター

関係JA

県行政課

れんこん部会

卸売市場